

令和7年度 吉川市立旭小学校 学校公開用

この学校評価は、学校の現状やこれまでの努力とその結果を公表し、家庭・地域にお知らせするとともに、今後の取り組みに向けて家庭・地域の理解や連携協力をお願いするものです。

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての 評価の説明及び学校の考え	学校関係 者評価	評価に対する学校の説明・考察
1	学校は、学校教育目標の実現のため、様々な取り組みに努めている。	3.6	学校教育目標の実現に向け、教育活動全般を見通した計画を立て、日々の実践に取り組んできた。教職員間で目標を共有しながら教育活動を進めている点を踏まえ、一定の成果が見られると判断した教職員が多かった。	3.3	学校教育目標に基づく取組について概ね理解が得られている一方、具体的な成果や取組内容が十分に伝わっていない面もあると受け止めている。今後は、教育活動の意図や成果をより分かりやすく発信していく必要がある。
2	教職員は、PDCAサイクルのもと教科指導や学級経営・校務分掌にあたっている。	3.8	学期ごとの振り返りや校内研修等を通して、教育活動の改善に継続的に取り組んできた。主体的に改善を意識して実践している教職員が多かった。	3.3	日々の教育活動の質の向上に努めている点は一定の評価を得ているが、PDCAの具体的な取組が外部からは見えにくいという課題も示唆された。今後は改善のプロセスや成果を共有する工夫が求められる。
3	学校は事故やトラブルに対してのマニュアルを作成・掲示し、迅速に対応できる体制を整えている。	3.6	危機管理マニュアルの整備や職員間での確認を行い、緊急時に迅速に対応できる体制づくりを進めてきた。	3	対応の流れが十分に見えにくい面がある。今後は情報提供の在り方についても工夫していきたい。
4	学校は清掃活動や掲示物等に力を入れるなど、組織的に環境美化に努めている。	3.3	児童の清掃活動や掲示物の工夫など、学校全体で環境美化に取り組んできた。一定の成果は見られるものの、さらなる改善の余地があると考えている。	3.3	今後も児童の主体性を生かしながら、より魅力ある学校環境づくりを進めていく必要がある。
5	学校は小中の連携を図り、小中一貫教育を推進している。	3.5	小中合同の取組や情報共有を進めてきたが、あと少しといったところである。連携の深化に向けた取組が今後の課題であると捉えている。	2.9	小中連携の必要性は理解されている一方、具体的な成果が見えにくいとの意見があった。今後は連携内容やその効果を分かりやすく示していくことが求められる。
6	教職員はPTA活動や地域の活動に積極的に協力し、地域の人材を活用した学習活動を積極的に行っている。	3.5	PTAや地域との連携を通して、地域人材を活用した教育活動を行ってきた。	3	今後は、より多くの保護者や地域の方に活動の様子が伝わるよう、情報発信の工夫が必要である。
7	学校は、学校の様子や成果を「学校だより」やホームページ等を活用し、積極的に情報提供している。	3.6	学校だよりやホームページを通して教育活動の様子を発信してきた。一定の情報提供は行えているが、より分かりやすい発信となるよう改善を図っていく必要がある。	3.4	情報発信の取組はある程度は評価されている。今後は、より伝わる発信を意識していきたい。
8	学校は地域の人材を活用するなど、保護者と地域が連携した教育活動を推進している。	3.7	地域の人材を活用した学習活動や、地域と連携した行事等を通して、保護者や地域と協力しながら教育活動を進めてきた。	2.9	活動の内容や広がりについて十分に把握しにくいとの意見がある。今後は取組の目的や成果がより伝わるよう工夫していく必要がある。
9	児童生徒は、落ち着いて学習に取り組み、学習内容を理解しようとしている。	3.4	日頃の学級経営や授業づくりを通して、児童が落ち着いた態度で学習に取り組み、学習内容を理解しようとする姿が見られている。	3.4	児童が落ち着いて学習に取り組んでいる様子については概ね評価されている。今後も引き続き、丁寧な指導を行ってきたい。
10	教職員は学力向上を目指し、PDCAサイクルのもと、児童生徒の実態に基づいた授業改善に努めている。	3.5	学力向上を目指し、PDCAサイクルに基づいて児童の実態を把握しながら、授業改善に継続的に取り組んできた。こうした取組が教職員の共通理解のもとで進められてきた。	3	児童の実態に基づいた授業改善に努めている点については評価されている。一方で、その成果がどのように表れているのかについては分かりにくい面もあり、今後は取組の結果をより明確に示していくことが求められる。
11	教職員は一人一台端末を積極的に活用し、ICT活用を推進している。	3.3	一人一台端末を授業や学習活動の中で積極的に活用し、ICTを取り入れた指導の充実にも努めてきた。	2.9	活用の仕方や効果について、学級による差があるとの意見があった。活用の仕方による差が出ないよう、活用方法の更なる共有化が求められている。
12	学校は学習ルールを定めて授業を進めるなど、共通理解のもと指導にあたっている。	3.8	学習ルールを定め、教職員間で共通理解を図りながら授業や指導にあたってきた。全校で統一した指導を意識して取り組んでいる。	3.4	学習ルールに基づいた指導については概ね評価されている。一方で、その内容やねらいが十分に伝わっていない面もあるとの意見もあった。
13	児童生徒は、友達や教職員・来校者に進んであいさつをしたり、正しい言葉づかいをしたりすることができる。	3.4	日常の学校生活の中で、あいさつや言葉づかいについて継続的に指導してきた結果、友達や教職員、来校者に対して進んであいさつをしたり、正しい言葉づかいを意識したりする児童の姿が多く見られるようになった。	3.7	児童のあいさつや言葉づかいについては概ね良好であるとの評価が得られている。今後も、場面に応じた適切な言動について、引き続き指導を継続していくことが望まれている。
14	児童生徒は、学習のルールや生活のきまり・時間を守ることができる。	3.3	学習のルールや生活のきまり、時間を守ることに、日常的な指導を積み重ねてきた。その結果、児童が決まりを意識して行動する姿が見られる場面が増えてきた。	3.4	児童がきまりや時間を守って生活している様子については概ね評価されている。一方で、個人差や場面による差も見られるとの意見があり、今後も継続した指導が必要である。
15	児童生徒はいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合って、学校生活を送っている。	3.4	日常の学校生活の中で、互いのよさや努力を認め合うことを大切にしながら指導してきた。その結果、いじめや意地悪な行為をしないよう意識しながら学校生活を送ろうとする児童の姿が見られるようになった。	3.4	児童同士が互いを認め合うとする姿勢については評価されている。些細なトラブルに対しての丁寧な対応を今後も継続していくことが重要だと考えている。
16	教職員は自ら手本となるなど、児童生徒に対して規範意識を高める指導を行っている。	3.5	教職員一人一人が自ら手本となることを意識しながら、児童の規範意識を高める指導に取り組んできた。日常の関わりを通して、その姿勢を継続してきた。	3.4	教職員が手本となって指導している点について評価されている。より一層の共通理解を図りながら指導を進めていきたい。
17	児童生徒は、体力向上に向け、体育の授業や部活動または外遊びに意欲的に取り組んでいる。	3.6	体育の授業や外遊びを通して、児童が体力向上を意識し、意欲的に体を動かすよう指導してきた。その結果、前向きに取り組む児童の姿が多く見られるようになった。	3.9	体育の授業や外遊びに意欲的に取り組む児童の様子については概ね評価されている。体力テストの結果も、高評価につながったものと思われる。
18	学校は、児童生徒の健康管理および食育に関する意識を高めようとしている。	3.8	保健指導や給食指導等を通して、児童が自らの健康管理や食に関する意識を高められるよう継続的に取り組んできた。その結果、日常生活の中で健康や食を意識する姿が見られるようになった。	3.4	児童の健康管理や食育に関する取組については概ね評価されている。学校保健委員会での取組等も含めて、今後は家庭との連携をさらに深めながら、継続的に意識づけを行ってきたい。
19	学校は、児童生徒の立場に立ち、一人一人の思いや願いを大切に、児童生徒に寄り添った対応をしている。	3.5	児童一人一人の思いや願いに目を向け、日常の学校生活での関わりを通して、児童の立場に立った対応を心がけてきた。	3	すべての場面で十分に行き届いてほしいという想いから、今後も丁寧な対応を積み重ねてほしいとの声があった。
20	学校はいじめや不登校をなくすため、児童生徒への指導の充実を図っている。	3.2	いじめや不登校をなくすため、日常的な児童理解を基盤とし、組織的に指導や支援の充実を図ってきた。しかし、早期発見からの組織的な対応、という点において、もっと向上させねばならないという反省があった。	2.6	未然防止の取組や早期対応に課題があったとの声をいただいた。さらなる充実が重要である。